

竜頭 : *G. stellatum* (または *G. quhelianum*) アルゼンチン (コルドバ州産)

竜頭は従来から *G. quhelianum* の学名が使われてきましたが、AGG 分類、New Lexicon では *G. stellatum* に相当し、Graham Charles、Piltz の種子リストでは *G. quhelianum* に相当します。

この *G. stellatum* (または *G. quhelianum*) については、栽培の場では両方の名称が使われており、Mesa の種子リストでも *G. stellatum* と *G. quhelianum* が特に区分なく併用されています。一般に種子販売業者では親株を導入した時の名称をそのまま使い続けることが多く、同じ種が異なる名前でリストに並ぶことがあります。

なお、AGG 分類の *G. quhelianum* は、外観が *G. stellatum* に似るが種子形態の全く異なる *Gymnocalycium* (*Ovatisemineum*) 亜属の一種であり、*G. robustum* とされてきた種です。

瑞昌玉 : *G. stellatum* v. *kleinianum* (または *G. quhelianum*)

瑞昌玉はギムノハンドブックに *G. quhelianum* forma. とあるように、従来より竜頭のひとつのタイプとされて来ました。*G. stellatum* (または *G. quhelianum*) の一タイプと見られます。刺の形状などから見て AGG 分類の *G. stellatum* v. *kleinianum* に該当するように思います。広い分類では *v. kleinianum* を区分しないため、New Lexicon では *G. stellatum* に、Graham Charles では *G. quhelianum* に相当します。

黒蝶玉 : *G. stellatum* v. *zantnerianum* (または *G. quhelianum*)

黒蝶玉は *G. bodenbenderianum* とされた時期があり、その後 *G. spec.* とされて来たようですが、これも *G. stellatum* (または *G. quhelianum*) の一タイプと見られます。AGG 分類の *G. stellatum* v. *zantnerianum* に該当します。

鳳頭 : *G. stellatum* aff. (または *G. quhelianum* aff.)

鉄冠 : *G. stellatum* aff. (または *G. quhelianum* aff.)

鳳頭は *G. asterium* の学名が用いられ、ギムノハンドブックでは一部で *G. sp.* ともされていますが、外観と花の形態から AGG 分類の *G. stellatum* のひとつのタイプまたは近縁種と判断しています。

現在この *G. asterium* の名前は分類の場では使われていません。Koehres など一部の種子リストに *G. asterium* の名前が残っており、また米国実生のこの名前の苗が出ることがありますが、これらは *G. riojense* の系統であることが多いように思います。

鉄冠は鳳頭の黒刺のひとつのタイプと見られ、鳳頭と同様に AGG 分類の *G. stellatum* の一部または近縁種と考えています。AGG 分類のオクルタム (*G. stellatum* ssp. *occultum*) に近い種のように思います。

騎士玉 : *G. stellatum* (または *G. quhelianum*)

新鳳頭 : *G. stellatum* (または *G. quhelianum*)

勲冠玉 (ウィンター・パルブラム) : *G. stellarum* (または *G. quehlianum*)

ウィンター守殿玉 : *G. stellatum* (または *G. quhelianum*)

騎士玉、新鳳頭は *G. sp.* とされ、勲冠玉、ウィンター・パルブラムは Backeberg による *G. parvulum* とされてきましたが、これらの種はすべて変化の多い種である *G. stellatum* (または *G. quhelianum*) のひとつのタイプと見られます。ウィンター守殿玉は和名から推定しますと、Winter 商会から *G.*

stellatum で入ったもので、当時既に *G. stellatum* とされていた守殿玉と外観が違いため、ウィンター守殿玉とされたと思われませんが、これはもとの名称どおり *G. stellatum* と見られます。



竜頭



瑞昌玉



黒蝶玉



鳳頭



鉄冠



騎士玉



新鳳頭



ウィンター守殿玉



勲冠玉



ウィンター・パルブラム



G. stelatum LB 1060



G. stelatum STO 418



G. stelatum v. *kleinianum*
Piltz seed 2303



G. stelatum v. *zantnerianum*
LB1137



G. stelatum ssp. *occultum*
TH 183

守殿玉 : *G. riojense* (または *G. bodenbenderianum*) アルゼンチン (ラ・リオハ州産)

守殿玉は *G. stellatum* の学名が当てられて来ましたが、守殿玉の和名で国内に流通するものの大部分は、AGG分類では *G. riojense* であり、New Lexicon、Graham Charles、Piltz の種子リストなどの分類では *G. bodenbenderianum* の一部に相当します。

G. stellatum の学名は、国内で竜頭とされる種やその近縁種が該当します。*G. bodenbenderianum* の名称については、下記の怪竜丸の項を参照してください。

怪竜丸 : *G. bodenbenderianum* アルゼンチン (ラ・リオハ州産)

怪竜丸は従来より *G. bodenbenderianum* の学名で来ており、現在もこの名称で通用します。

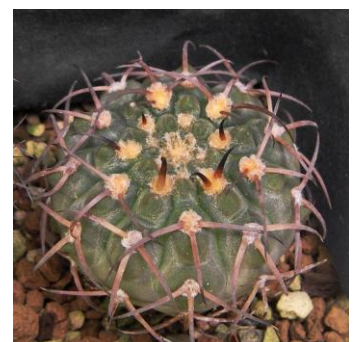
なお *G. bodenbenderianum* の学名は、AGG 分類では怪竜丸とそのごく近縁種を指しますが、New Lexicon、Graham Charles の分類によると怪竜丸、守殿玉 (AGG 分類の *G. riojense*) を含む広い範囲の種を指し、これに従う Piltz の種子リストでも同様となります。



守殿玉



怪竜丸



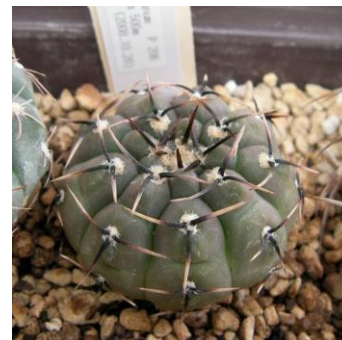
G. riojense VS 55



G. riojense v. P122



G. riojense v. pipanacoense P140



G. bodenbenderianum P206

天紫玉（尾形丸）： *G. zegarrae*（または *G. pflanzii* ssp. *zegarrae*） ポリビア産

天紫玉の学名は *G. pflanzii* v. *albipulpa* とされてきましたが、表皮が紫がかった色の *G. zegarrae* のひとつのタイプと考えられます。

pflanzii v. *albipulpa* はもともと *G. zegarrae* に与えられた名称であり、*albipulpa* は白い果肉を意味します。本種は果肉が白く、果実が縦に裂開して種子と中味が流出し、白色に近い花で、*G. zegarrae* の特徴に合致します。これに対して *G. pflanzii*（天賜玉）では果肉が赤く、果実が横に裂開して中味が流出しません。



天紫玉



天紫玉



天賜玉

G. zegarrae (=G. vallegrandense)
Piltz sed 3669G. zegarrae (=G. vallegrandense)
Piltz sed 3669

G. zegarrae STO 824